

ログラムが、多数のNC機械や、機械加工パーツのコンピュータ制御検査に直接使われている。

デハビランド・カナダ社

トロント近郊に大型工場と三千人の従業員を持つデハビランド社の歴史は、そのままカナダ航空産業の歴史であり、また世界の短距離旅客機の発展の歴史でもある。

一九二七年、リンドバーグが大西洋横断無着陸飛行に成功し、世界の航空史に大きな足跡を残したその年、カナダにおいて、その後のカナダ航空産業の礎ともなる重要な方針決定がなされた。政府はイギリスのデハビランド社から、DH60MOTH十機の購入を決定、国内における支援態勢について、デハビランド社と交渉を重ねた。その結果、デハビランド社はアフター・サービス態勢の万全を期すためにカナダに子会社を設立することと決定し、一九二八年三月デハビランド・カナダ社(DHC)が発足、イギリスで設計・製造された航空機の組立ておよびセールス・サービス・センターとしての機能を持つことになった。

一九三七年には本格的な航空機製造会社として航空機の製造が始まり、第二次大戦中は、TIGER MOTHとMOSQUITOのライセンス生産を行った。第二次大戦の終わった一九四五年、DHCはそれまでのイギリス本社への全面的な依存を脱却し、独自で設計した航空機の製造を図る。DHC-1チップマン

クを開発、翌年にはDHC-2ビーバーを開発した。ビーバーは一九六八年まで二〇年間にわたり製造され、千六百九十二機が引渡されたという記録をつくった。DHC-5パッファロー(一九六四年)、DHC-6ツインオッター(一九六五年)、DHC-7/DASH-7(一九七五年)が開発され、そして一九八三年四月一日にロールアウトしたDHC-8/DASH-8が開発された。

ツインオッターは、すでに八百機を超える引渡し実績を持ち、現在コンピュータ機の分野で最も活躍している信頼性の高い航空機といえる。無舗装の滑走路で



三十六席、二発エンジンのDASH-8は、多くの面でDASH-7の成功を引き継いだものになっている。機体構造の共通性やT字のテールなどはその例である。巡航速度二百七十七キロ、ノーズやエンジンナセルが流線型となり、胴体の径も少し細くし、スパークリティカル翼の採用などのほか、新素材のKEVLAR/NOMEXのハニカム使用などの多くの新機軸が打ち出されている。新素材の使用は従来機の二倍以上で、機体重量の一〇パーセントを占めている。

も運行可能なうえ、四百五十七メートルの短い滑走で離着陸できるので、北米のみならず、アジア、アフリカ、中東地域でも受け入れられた。日本でも、日本近距離航空と南西航空が使用している。

DASH-7は五十席という、短距離旅客機としては、大型のサイズとSTOL性、そして低騒音を同時に実現した四発エンジンの航空機である。乗客数の比較的多い短距離ルートに最適の航空機として、現在までに百機近くが引渡されている。

一九八二年のDHCの売上は四億五千万ドルで、その七、八割は輸出によるもの。

現在、パッファロー、ツインオッター、DASH-7をそれぞれ月産一機製造し、DASH-8の量産体制を整えている(一九八六年には、DASH-8の製造は月産六機に増える予定)。

ベル・ヘリコプター・カナダ社

一九八三年十一月、カナダ政府とケベック州政府は、ベル・ヘリコプター・テキストロン社が、モントリオール近郊のミラベルに軽双発ヘリコプター製造工場を建設する、と発表した。カナダでは初めてのヘリコプター製造である。

ミラベル空港に隣接した工場は、設計、開発、製造、販売、補修、サービス等の施設をもち、これを運営するために新しくカナダ法人のベル・ヘリコプター・カナダ社が設立されることになった。

同社が扱うヘリコプターは、アメリカ

で現在開発が進んでいるベル400ツインレンジャー、ミラベル工場が開発予定の400A型、400型と、これら三機種の発展型。一九八五年には、ツインレンジャーの生産に入る予定である。

新工場の建設は、カナダにおける新しいヘリコプター産業創設への重要なステップといえる。

プラット・アンド・ホイットニー・カナダ社

プラット・アンド・ホイットニー・カナダ(PWC)は、これまで約二万五千五百基のガス・タービン・エンジンを生産し、世界百四十か国で種々の航空機に採用されている。一九八二年の売上は五億四千万ドルを超え、その七五パーセントは輸出であった。

ケベック州モントリオール郊外のロングイールと、オンタリオ州トロント郊外のミシソーガの工場、研究所、オフィスに六千五百人の従業員を擁し、ガス・タービン技術の研究開発部門(約千六百人)は、カナダの民間企業の中で第二位の規模を誇っている。

PWCはアメリカのコネチカット州ハートフォードに本社を置く多国籍企業、ユナイテッド・テクノロジーズ・コーポレーション(UTC)グループの一員である。

PWCは、航空機用エンジンの分野だけでなく、発電装置、ガス・石油用バイプラインのポンプ基地、船舶用推進装置など産業用並びに船舶用ガスタービン・エンジンの分野でも活躍している。

(日本航空宇宙工業会「翼のある風景」より)